長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

全国では11組織が現勢回復　長崎でも6ヶ月連続新加入

9月24日、東京永田町の全国町村会館で職場活動の活性化、組織の拡大・強化をめざす組織担当者会議が開催され、全国から約120人が集まり、長崎高教組からは2人が参加しました。全国のとりくみに元気をもらい、長崎でできること、やらなければならないことが見えてきました。声かけ、対話で仲間を増やしましょう。

秋は要求実現の山場、要求に根ざした闘いを

蟹澤全教中央執行委員長は、開会のあいさつで、秋は要求実現の山場であり、すべての教職員が要求を実現するためにつながり、組合を作っていること、そして要求に根ざしたたたかいは本物になると強調しました。

7月参院選の沖縄での現職大臣を破っての勝利と青森、岩手、宮城、山形、福島の東北5選挙区での野党の勝利は、基地問題、原発問題、TPP問題という課題に対し、要求で結集した結果として大きく評価しました。安倍政治こそが、要求実現をはばんでいることを理解してもらい、浸透させるために粘り強く総対話を続けましょうと訴えました。

「秋の強化月間」　職場総対話とゆいまーる

吹上副委員長（組織・情宣局長）が基調報告を行いました。まず、「3か年計画」2年目までのとりくみと組織拡大の到達を確認するとともに、「3か年計画」の目標達成のために「秋の強化月間」が重要な節目であり、成果と教訓を交流し、明日からの拡大に一歩踏み出す契機とするという会議の目的を明示しました。

現勢回復を実現した11組織をはじめとして、拡大の具体的な数字を上げ、全国のとりくみ、専門部のとりくみを紹介したのち、「秋の強化月間」の冬に向けたとりくみを提起しました。

一点目は、職場総対話です。新採者、青年教職員への総対話、「学びたい」要求にこたえる組合運動としての「秋の教研」、「つどい」、「職場教研」などに積極的にとりくみ、多くの未組合員を誘い、仲間を増やします。また「生活を守る」、「命と健康を守る」、「身分を守る」全教共済の意義を訴え、「秋の募集」に積極的にとりくみ、全教共済加入者を増やし、組合加入につなげます。

二点目は、12月の「未来プロジェクト・ゆいまーる」です。「3か年計画」の柱と位置づけ、各組織の独自のとりくみを強化し、憲法と沖縄について学習をすすめ、参加目標を追求し、全国で1000人の参加をめざします。

山口・東京・北海道・和歌山からの特別報告

山口県教組は、学校現場に話をすることが難しい状況がある中で、転入者に対する声かけなど日々の声かけ、対話が働きやすい職場を作っているという職場のとりくみを報告しました。

都教組は、故三上満さんの「学校　ここにある希望」「こども　ここにある希望」を紹介し、「都教組　ここにある希望」のスローガンのもとにとりくんでいる「都教組を強くするつどい（都教組を知るつどい）」について報告しました。緻密に作られた、組合・共済加入促進年間計画に基づいて、「子どもと教職員の未来のために組合に入ろう」と呼びかけ、加入者を増やしています。

北海道高は、台風10号等の大雨、暴風被害に際して、全教共済加入者へ積極的な給付の世話役活動や被災地域の学校へのお見舞い訪問などのとりくみを報告しました。その中で、青年教職員の全教共済の加入、認知度が低いことが分かり、全道100か所での総合共済学習会を実施しています。

和教組は、全国実行委員の青年教職員から「ゆいまーる・わかまーる」のとりくみが報告されました。「ゆいまーる」記念講演の三上智恵さんが沖縄の現状を映画にした「標的の村」のメイキング映像をもとに、沖縄について学びました。その他にも、ライブやメッセージ、写真展示などもおこない学習を深めました。

長崎でもできる、長崎でもやりとげよう

午後の討論で印象に残っている、また教訓となる発言を列記します。

道教組は、未加入者を誘おうと「つながりづくりのための5000円事業」と「全教共済まるごとガイドブック」を使った学習会のとりくみ。

島根教組は、組合リーフレット「大丈夫、つながり、ささえ合うメンバーがいるから」の発行。

岡山高教組は、約200人の加入、メールでの声かけ報告とご褒美スイーツ。

福島県立高教組は、メーリングリストによる「IKUZE」配信。

香川教組は、8・6広島集会への青年部の参加、青年部総会の実施。

全教北九州は、「権限委譲ニュース」の全学校訪問、配布で組合の存在のアピールと、青年部中心に教員採用試験学習会の6回実施。

京都市教組は、青年部役員を常任委員と7人で構成、青年教職員が組合専従に。

大教組は、大阪府条例できまった自転車保険の強制加入に関連し、6000万円保障の日教済に対し、無制限保障を実現し、大共済への大幅加入のとりくみ。

青森高は、退職で1人分会になる危機から、声かけ対話に積極的にとりくみ、8人の加入を実現。

埼高教は、新採に対する「青年教員権利手帳」の配布と「1000人対話」の実施。

長崎高教組も4月から6ヶ月連続新加入を更新中です。長崎も元気にやっていこう。

中国・四国・九州ブロック青年教職員学習交流集会in武雄
11月26日・27日

多くの青年教職員と交流をしよう
部活動について考えよう

中国・四国・九州の青年教職員が、佐賀の武雄に集まって、講演や分科会で学習を深め、夕食交流会で本音での交流をおこない、ワークショップで有田焼やトレッキング体験をおこないます。

日程は、別掲の通りです。

講演は、早稲田大学の非常勤講師で総合型地域スポーツクラブ「飛騨シューレ」代表理事でスポーツと女性、スポーツと子どもの関わりを科学的に研究・実践している山田ゆかりさんです。「ブラック部活顧問」、「ブラック部活」の問題が話題になっています。

今回の講演では、部活動のあり方について、部活動顧問のあり方についての示唆を得られると期待しています。部活動について、考えている方、ぜひ参加しましょう。

夕食交流会では、さまざまな県の、さまざまな働き方やいろんな見方、意見に触れることができます。世界を広げてみましょう。

まだ組合に加入していない方も誘って、組合に入ってもらって一緒に参加しましょう。

【11月26日（土）】
12:30～　受付……武雄市文化会館
13:30～　開会行事
13:45～　講演　「スポーツと子どもたちのいい関係」
　講師　山田ゆかりさん
15:30～　分科会
　第1分科会　生徒も教師もトラブルから育つ
　第2分科会　焼き物を知ろう（有田焼講座）
　第3分科会　部活動について語ろう
18:30～　夕食交流会……国際観光旅館　なかます

【11月27日（日）】
8:30～　朝の会＆帰りの会‥‥国際観光旅館　なかます
9:00～　ワークショップ（12:00をメドに現地解散）
　①九州オルレ武雄体験（ハイキング）＆
　「よりみちステーション」訪問・学習
　②有田焼体験……有田工業高校

人事異動のあり方についての県教委交渉

高教組速報で既報のとおり、高教組は9月21日、人事異動基本方針など人事異動のあり方についての県教委交渉を行いました。速報でお伝えできなかった部分の概要は次のとおりです。

○人事異動基本方針について

組：方針が変わって3年目だから、検証が必要ということだが、高校での最大の変更である第六地区の設置の理由は、第六地区に該当する学校に自ら手を挙げて行ってもらう人を増やすという説明だった。希望は増えているのか。

県：まだ2回目なので、そう急にはでてこないかもしれない。定着すると、4地区経験しなければならないということを考えて、家から通える範囲でということで希望が出て来るのではないかと思っている。

組：増えているのかどうかきちんと確認しなければならないはず。年度ごとの状況はきちんと把握しておくべきだ。

県：それはちゃんとつかんでおかなければならないと思っている。

組：（高教組が提起している3地区制等にふれて）異動基準を決める目的は、なかなか異動希望が出ない地区・学校について、みんなで分担して行きましょうということだろう。

県：そうですね。

組：それをどう方針に反映させるかということで検討して欲しい。

○同一校の勤続年数について

組：今年度の異動についての県教委の説明の中で「4年になったからということで動かしたというのはそんなにない。四地区から戻ってくる人を入れるためにというようなことで動いている人がいるかも知れない」「順番からいえば長い人からというふうにならざるをえない」という話があった。「希望なしで4年で動かすのは、事情があってやむを得ない場合。基本的には勤続年数の長い人から」と理解してよいか。

県：はっきりは言えないが、4年で機械的に異動させることにはならない。そうでないと異動対象者が多すぎて、学校がどんどん変わることになる。「長い人から」というのはそのとおり。

組：4年で異動させられる人が出てきている一方で、長い人は長いという差が出てくるという状況が生まれる。その不平等感をどうするのかということが大きな課題だ。

○専門性の尊重

組：専門高校に設置されている専門科から専門性の高い教員を異動させる場合に、同等の専門性を持った人が代わりに転入して来なくて現場が苦労しているという声が出ている。

県：そうならないように配慮はしているが、勤続年数等のタイムリミットがあったりして、どうしても動かさなくてはならない場合に、その後に適任者を入れることがこともある。そうならないように長期的な展望でやっていかなければならないとは思っている。

○その他の主な要求についての回答

【要求内容】校長の「本人ヒアリング」は、できるだけ丁寧に詳しく行うとともに、意向調書提出以降も、必要に応じて追加のヒアリングを行うことや、教職員から相談があった場合は誠実に対応するよう、校長を指導すること。

【県の回答】了解した。ただ、追加のヒアリングについては、すべて行うということではなく、あくまでも「必要に応じて」ということ。職員からの相談については、誠実に対応するように指導する。

【要求内容】内示の時期を遅くとも3月15日までに設定すること。また、離島と本土間の異動に関しては、できるだけ早い時期に本人へ異動の有無だけは明らかにすること。

【県の回答】内示の時期については、意見として十分に伺っておくが、県職員全体にかかわること。「本土」「しま地区」にかかわらず、同一日にならざるをえない。

【要求内容】内示にかかわる苦情に県教委として対応するシステムを整備すること。

【県の回答】現場の職員から直に人事に関する苦情などに対応するシステムを整備することは考えていない。校長が意向を聞いているので、校長から返してもらう。

【要求内容】欠員補充者を大幅に減らし、正規採用者を増やすこと。やむを得ず欠員補充者を採用する場合は、配置校に偏りがないように配慮すること。

【県の回答】欠員補充の数は減るように努力したい。配置校のバランスについても配慮したい。

○第四地区満了後の2回目の第四地区赴任に関する取扱の変更について

県教委は、今年度末の異動から「2回目」の定義の中に、満了期間を超えてそのまま第四地区に留任して3年以上勤務する場合も加え、満了後の期間は他地区に読み替えることができるという配慮事項を適用するように取扱を変更（追加）することを明らかにしました。

なお、県教委は、「第四地区満了後の2回目の第四地区赴任」の可能性のある教科は、今のところ商業だけとしています。

西彼3分会からの便り

【西彼杵分会】
創立70周年に向けて、教職員も生徒も一丸に！

3年前から試行を始め、2年前から本格的に始まった「学びの共同体」の授業実践は、生徒の学習意欲を高め、結びつきを強くし、教職員のチームワークを高めています。

東京大学の佐藤学名誉教授が提唱した、子どもたちが対話を通じて、主体的に課題解決の方法を探る「学びの共同体」。授業では、基礎的な「共有の課題」と、成績上位の生徒でも解くのが難しい応用レベルの「ジャンプの課題」が出され、生徒たちが互いに話し合ったうえで、答えを導き出します。生徒の中に、よりしっかりとした絆が結ばれます。同時に、教員が授業を開き合い学び合うことで同僚性が高まります。

6月の公開授業研究会は、県下から120人を超える参加者が集まり、好評を博しました。

男子弓道部が8月末の長崎地区新人戦で見事に優勝したこと、9月の九州高校野球長崎県予選でベスト8に進出したことは、「学びの共同体」の実践とつながっています。

創立70周年の年、教職員・生徒一緒に奮闘しています。

【大崎分会】
リオ・パラ　鳥海君大活躍

オリンピックでの体操、内村航平さんの活躍に感動しました。大崎高校では、オリンピック以上に、パラリンピックに関心が高まりました。もちろん、本校3年の鳥海連志くんが、車いすバスケットボール男子日本代表として出場したからです。

中学1年から車いすバスケを始め、高校1年で日本代表に初選出。数々の大会に参加し、経験を重ね、今回リオ代表メンバー12人のうち唯一の10代で選出されました。パラリンピックでは全試合に出場し、20点以上の得点を上げました。

学校でのパブリック＝ビューイングに生徒、保護者だけでなく町民も多く集まり、熱心に声援を送りました。

生徒たちは、隣にいる友人が地球の裏のリオで活躍している姿を見て、パラリンピックに対する関心を高めると同時に、元気をもらったようでした。

学校での壮行会、報告会で鳥海くんは、日頃の学校でのひょうきんな姿とは違い、堂々としたスピーチをおこない、日本を代表する選手としての風格を見せていました。

4年後の東京パラリンピックでは、中心選手としての活躍を期待されています。今後の成長に期待してます。

【西彼農分会】
農業文化祭の大成功を！

西彼農業高校では、農業高校の特性を生かして、地域とのふれあいを深めています。9月には、琴海児童館「どんぐりまつり」では「ふれあい動物園」、そして琴海の村松小学校では「ミニ動物園」を実施しました。子どもたちにヒツジや山羊、子ブタ、ウサギ、ハムスタ

ーなど小動物とのふれあいを体験してもらいました。

最大のイベントである農業文化祭が11月に迫っています。地域の方々からの期待も大きく、毎年1500人を超える来場者があります。毎年すぐに売り切れる採れたて新鮮、安い農産物はもちろん、花卉、花の苗、苗木、おいしさ爆発の西農クッキーをはじめとする食品、食物バザーなど、地域の方々から心待ちにされています。

専門を生かしたミニ動物園、ファッションショーや各部の展示も見応え十分です。生徒と教職員が一体となり、農文祭の成功に向けて、準備をしています。